

令和元年度 1 学年 国語科 授業改善推進プラン

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<p>○五十音の文字と発音を一致させて書くことができる。 ○既習の平仮名を用いての言葉あつめや、絵を見てのお話づくり、学んだ構成を生かしてのクイズづくりなど、言語活動に意欲的に取り組む児童が多い。 ○文章や挿絵を見ながら、場面の様子や説明されている内容について、想像を広げたり、自分の経験や知識と結び付けたりしながら、読み解くことができる。 ○日常生活から書きたいことを見付けて、文に書き表すことができる。 ○語や文としてのまとまりや内容に注意しながら、音読することができる。 △平仮名を書く際、筆順が誤っていたり、とめ・はね・はらいなどが正しく書けなかったりする。 △濁点や半濁点、促音を、書き落とす児童が多くいる。 △助詞「は・を・へ」や句読点を、文の中で正しく使うことができない児童が多い。 △尋ねられている内容の理解が難しい児童がいる。(ワークテストの問題文などを、正しく理解して解くことができず、教師が説明を加えることが多い。)</p>	
<p>↓ 重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<p>・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞「は・を・へ」の使い方、句読点の打ち方、かぎの使い方を理解して、文や文章の中で使えるようにする。 ・平仮名や片仮名を正しく読んだり書いたりできるようにし、文や文章の中で使えるようにする。</p>	
<p>【授業改善策】</p>	<p>↓ 授業改善の手だて</p>	<p>・視写や聴写などを取り入れながら、様々な場面で繰り返し指導する。 ・文や文章を書く活動を意図的に多く取り入れ、用い方を習得できる機会を増やすようにする。 ・教師による間違いモデル文の提示から、正しい表記を指摘するなどの学習活動を取り入れる。 ・書いたものを読み直し、間違いに気付き、書き直す時間をとるようにする。自ら気付くことは難しいと思われるため、友達と相互に推敲するような手だてもとるようにする。</p>
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名：『しらせたいな、見せたいな』 → 『まちがいを なおそう』 指導時間：12時間 指導時期：10月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<p>・児童の誤りやすい表記をもとに、教師の間違いモデル文を模造紙で提示し、児童に推敲させる。その後、その模造紙は教室に掲示し、意識付けを図るようにする。【まちがいポイント】 ・“とりクイズ” にしたい内容を、いきなりひとまとまりの文章にするのではなく、短冊カードなどに一文ずつ書き表させ、正しい表記の仕方を意識して書かせやすくする。 ・書いた文章を隣の席の友達と交換して読み合い、【まちがいポイント】に沿って推敲し合い、アドバイスさせるようにする。 ・“まちがいみつけプリント” などを作成し、間違いをいくつ見付け、正しく書き改めることができたかを競うようなゲームを取り入れてみる。</p>

令和元年度 1 学年 算数科 授業改善推進プラン

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<p>○算数の学習活動に主体的に取り組み、算数の学びの楽しさを感じている児童が多い。 ○具体物などを用いて、自分が考えた答えの求め方を、すすんで伝えることができる。また、その求めた過程も、順序だっている。 ○数の構成、分解、比較など、数の概念も正しくもっている。 ○加法及び減法に関わる数学的活動においても、多くの児童が優れた力をもっている。 △問われていることがすぐに理解できない児童が多くいる。 △数量やその関係を、絵や図などに表して探っていくことを苦手としている。 △計算問題には優れた力を見せるが、文章問題になると、上記のように何を問われているのか捉えられなかったり、答えを求める際の手掛かりとなる言葉に着目できなかったりする。</p>	
<p>↓ 重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<p>・問題解決の過程や結果を、絵や図、具体物などを用いて表現する力。</p>	
<p>【授 業 改 善 策 】</p>	<p>↓ 授業改善の手だて</p>	<p>・課題を捉える際には、問題の場面を絵や図などで表し、考えさせるようにする。 ・問題解決の過程を、絵や図などを用いて説明できるようにする。 ・教師も、児童の理解を助けるように、黒板や ICT を用いて、絵や図によって解き方を指導するようにする。 ・児童の生活経験が算数の学習につながっていくことが実感できるような学習活動を行う。</p>
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名：『ずをつかってかんがえよう』 指導時間：6 時間 指導時期：2 月中旬頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<p>・問われている場面を、抽象的な●を用いた図に表して考察させる。その際、解決が難しい児童がいれば、これまで用いてきた絵や半具体物などを用いて考えさせ、段階を踏んで抽象化に慣れさせていくようにする。 ・問題づくりを行い、互いに作った問題を、図を描きながら解き、説明させるようにする。 ・友達が立式したものを、図を活用しながら説明し、具体的な場面や数量の関係を捉える力を高めるようにする。 ・教師から式を与え、その式に沿った問題文を考えさせるようにする。</p>

令和元年度 1 学年 生活科 授業改善推進プラン

<p>児童・生徒の 【実 態】</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>○動植物の観察の際には、様々な観点に沿った見方ができる。 ○学習活動の楽しさを感じ、意欲的に取り組む児童が多い。 ○動植物に対して、優しい気持ちをもって世話をしたり、前向きな考えをもって学習を進めたりすることができる。 △観察したことや体験したことを、絵や文章で表現する力に差がある。 △身近な人々や社会、自然などを、自分との関わりで捉えることが難しい児童が多い。 △生活科で学習したことを、学校や家庭、地域での生活に生かすまでに至らない。</p>	
<p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>・具体的な活動を行う中で、身近な生活を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとし、自らの生活を豊かにしようとする。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">【授 業 改 善 策 】</p>	<p>授業改善の手だて</p>	<p>・様々な学習活動ごとに、活動して終わりではなく、必ず、そこでの学びが、その後の自分の生活において、どう生かすことができるかまで考えさせるようにする。 ・学習内容が、自分とどのように関わっていることなのかということを、理解させていくようにする。</p>
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名：『あきとともだちになろう～ようこそ あきのたからものランドへ～』 指導時間：9 時間 指導時期：10 月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<p>・身近な材料(木の実や木の葉など)を利用して、遊びや遊びに使うものを工夫して作り出せることに気付き、その楽しさを味わわせ、その後も、自ら遊びを作り出せる（生活を楽しむ）ことができるようにする。 ・秋の遊びを作る際、地域の方々にも協力してもらい、自分を助けてくれる存在を理解し、感謝の思いがもてるようにする。 ・作った遊びを、近隣の保育園児を招待して共に楽しむ場を設定し、幼児と適切に関わり合う力や、人と積極的に関わろうとする姿勢を育むようにする。（協力してくれた地域の方々も招待する）</p>

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<p>○準備・片付けを安全に意欲的に取り組むことができる。 ○運動に対して意欲的に取り組むことができる。 ○自分の課題に対して前向きに向き合い、何度も挑戦することができる。 ○友達と豊かに関わり合いながら、活動することができる。 △今までの運動経験に差があり、運動に必要な基本的な動きが身に付いていない児童がいる。</p>	
<p>↓ 重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<p>・各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けられるようにする。 ・友達と豊かに関わり合いながら運動遊びに取り組めるようにする。</p>	
<p>【授 業 改 善 策 】</p>	<p>↓ 授業改善の手だて</p>	<p>・運動する時間を多く設け、児童が主体的に運動の特性に気付き、味わえるようにする。 ・運動遊びの特性が十分に味わえるよう場の工夫をする。 ・活動の中で、よい動きや声かけを共有する時間を設け、豊かに友達と関わり合えるようにするとともに基本的な動きが身につくようポイントに注目できるようにする。</p>
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名：走・跳の運動遊び 指導時間：4 時間 指導時期：1 1 月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<p>・児童に遊びを通して身に付けたい力を付けられるように、場の工夫をする。 ①走り幅跳びの場（川を越えるために遠くに跳ぶ） ②ケンケンパの場（リズムよく跳ぶ） ③ゴム跳びの場（より高く跳ぶ）など ・班の友達と共に行動することによって、友達のよい動きや声かけを見付けやすいようにし、豊かに関わり合えるようにする。 ・目指す児童像を教師が明確にもち、よい動きや声かけをしている児童に対して声かけを行うとともに、学級全体に共有するようにする。 ・運動をする時間を十分に確保する。</p>

令和元年度 1 学年 図画工作科 授業改善推進プラン

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<p>○すすんで工作や絵で自分のイメージを表現することができる。 ○発想力が豊かな児童が多い。 ○友達の作品の良いアイデアを自分の作品に取り入れることができる。 △発想力に差がある △正しく材料・道具を用いて作ることが難しい児童がいる。 △技能に差がある。</p>	
<p>↓ 重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい材料・道具の使い方を知り、使うことができるようにする。 ・様々な友達のアイデアを見て周り、発想力を豊かにできるようにする。 ・自分のアイデアを表現できるようにする。 	
<p>【授 業 改 善 策 】</p>	<p>↓ 授業改善の手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し使用する材料・道具の正しい使い方を説明するとともに、視覚的に分かるように掲示する。 ・単元の様々な場面でアイデアを交流する時間を設定し、豊かな考えに触れられるようにする。 ・手先が不器用で、アイデアを表現することができない児童に対しては、机間指導の中で助言するとともに活動を支援し、表現できるようにする。
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名： さわって、はって、たしかめて 指導時間： 6 時間 指導時期： 9 月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めにはおはながみで造形遊びを行うことで、おはながみのおもしろさに児童が主体的に気づき、表現の工夫に生かすことができるようにする。 ・造形遊び、作品の構想、作成のそれぞれの時間で交流する時間を設ける。そこで聞いた友達のアイデアも自分の作品に取り入れ、表現を工夫させるようにする。 ・水で薄めた洗濯のりの使い方や塗る濃さを視覚的に掲示し、正しく使えるようにする。 ・教師が、より良い工夫をしている児童を意図的に取り上げ、クラス全体に表現の工夫を共有する。 (形、色、組み合わせの工夫など)

令和元年度 1 学年 音楽科 授業改善推進プラン

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に興味・関心をもち、歌や身体表現など楽しく行っている。 ・けんばんハーモニカや身体表現に意欲的に取り組むが、けんばんハーモニカでは、個人差がある。 ・歌では、話す声と歌う声の違いに気づいてきたが、音程がとれない児童がいる。 	
<p>↓ 重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの歌声や楽器の音を聴きながら、気持ちを合わせて歌ったり演奏したりする。 ・楽器の響き合いに気付き、拍の流れやフレーズを感じ取りながら楽しんで聴く。 ・楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に親しむ。 	
<p>【授 業 改 善 策 】</p>	<p>↓ 授業改善の手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合った魅力ある曲を選曲する。 ・思いや感じたことを音や言葉で表現できる場面を設定する。 ・小さな成長を励まし、評価し、自身で課題を見付け意欲につなげる。 ・鍵盤ハーモニカでは、運指などわかりやすい指導に努めるとともに、個別指導を行う。 ・いろいろな楽器に触れることができるよう、魅力ある教材を用意する。
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名： 音を合わせて楽しもう 指導時間： 1 2 時間 指導時期： 2～3月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手遊びや歌、楽器を使ったリズム遊びを多く取り入れ、楽しく取り組める雰囲気づくりをする。 ・鍵盤ハーモニカでは、指の運びがわかりやすいように視覚化し、個別指導を行う。 ・曲を歌う中で、アカペラ指導を取り入れ、音を聴く時間を確保し、音程がとれるように指導する。

